城山の緑と桜を守る会

代表　堀口　三郎

遡ること 40 年前、団地が建設され新しい家が建ち人が集まり暮らし始めたころ、山を削って土砂を取った後に、西の山際には５段を越える階段状の法面が生まれていました。その斜面には崩れ落ちないよう対策が施されてはいましたが、次第に雑草が繁茂し、繁殖力旺盛なつる植物もはびこり始めました。また、主要な道路には歩道も設けられましたが、山際の法面と接する歩道にはツルが覆うようにはびこり、安心して歩けない状態になっていました。

折角、緑が豊かな自然に近い環境の団地建設でしたが、平らな場所を離れると、自然の脅威がダイレクトに迫ってきていました。こうした状況を心配し憂う住民の中には、誰に指示されたわけでもないのに自発的に環境整備に取り組む先達の方々が現れてきました。道路わきの雑草を熱心に刈り取り少しずつ花壇に変えていく女性、斜面には鎌を持って果敢に立ち向かう男性、こうした姿に接し草刈りを手伝い出す方、そうした住民の動きが大きくなった平成 10 年（1998 年）の秋、区長たちの呼びかけにより、地域環境整備に取り組む住民組織が「緑と桜を守るボランティアの会」と名付けられ発足しました。その後 2000 年の高崎市制 100 周年に当たる年には、記念行事としてこの法面に“桜や梅の苗木”を一挙に 100 本植えてしまおう、という壮大な計画が立てられ、子供から大人やお年寄りまで多くの町民が参加され１日にして目標の 100 本植樹が達成されました。

100 本もの苗木を植えた法面は、その後の管理と整備が不可欠となります。ボランティアの会は、この維持管理を主体となって担う事で、会の活動はさらに活発になって行きました。

発足後、ボランティアによる任意の団体という性格が、城山町にとってまちづくりに欠かせない存在であり、町内会としての支援体制を明確にする意味も込め、団体名称から“ボランティア”を取って「城山の緑と桜を守る会」と名を改め、環境整備の前面に立つ団体となり、その活動範囲は当初の西側法面だけにとどまらず、2022 年現在では、中山峠側の“３本桜広場”から山名方面へおりる金井沢近くの部分にまで範囲を広げ、管理する面積の合計は、南公園も含めて約 34,000㎡に拡大しています。

金井沢近くの斜面には、町外の「ＯＣＢ会」（山桜を主とした病害に強い品種の桜を植えすすめている環境保護維持団体）と城山小学校の協力の下、順次 100 本近くの苗木の記念植樹を行っています。さらに昨年からは高層住宅の東側にあたる急斜面にも雑木を伐採し跡地に桜を植え付けており、団地西側のいわゆる水道山一帯には、団地建設当初に植えられたものも含め全体では 300 本を超える花木が育っています。

こうした 20 数年に及ぶ地道な環境維持や緑化活動に、国内の幾つもの自治体様、財団様や企業様から高い評価をいただき、名誉ある賞や活動助成金を授与していただいています。

＊第 41 回「全国花いっぱいコンクール」において“地区審査での優秀賞”を受賞
＊「高崎市緑化運動推進委員会表彰」を受賞